

幌小っ子だより

登別市立幌別小学校

学校だより 第 8 号

令和7年10月24日

幌別小学校教育目標

- すすんで学びよく考える子
- 互いに助けあい思いやる子
- 丈夫な体でたくましく生きぬく子

(昭和62年3月改訂)

挨拶について

～心のバトンを渡して～

校長 松田 周一

先日、5年生の道徳の研究授業をみる機会がありました。テーマは「挨拶」。子どもたちは、単に言葉を交わす行為としてだけでなく、「相手に心を伝えること」としての挨拶の大切さについて、真剣に考え、意見を交換していました。挨拶一つにも多様な意味や感情が込められていることを学び取ろうとする彼らの姿に、改めて感心させられました。

私自身、毎朝正門前で子どもたちに声を掛けていますが、月曜日の「おはようございます」と金曜日の「おはようございます」には、込めている思いが少し異なっているかもしれません。月曜日の挨拶には「一生懸命学校に来てくれたね。ありがとう」という歓迎の気持ちを。金曜日の挨拶には、「一週間、本当によく頑張ったね」というねぎらいの気持ちを込めています。また、昨日泣いていたり休んでいた子には「今日は元気かな、一緒に頑張ろう」という励ましを込めるのです。短い言葉ではありますが、挨拶は発する人の感情や思いといった「心のバトン」を渡す行為だと考えています。

元NHKアナウンサーで、『気くばりのすすめ』などのベストセラーでも知られた鈴木健二氏の言葉に、『挨拶』とは何か。それは『心を開いて相手に迫る』ということである」があります。鈴木氏によれば、「挨」という字には「開く」、「拶」には「迫る」という意味があるそうです。文字通り、心の底から相手に接することが挨拶の本質であるといえるでしょう。

学校での挨拶は、子どもたちの社会性を育む第一歩です。ご家庭におかれましても、単なる習慣としてではなく、ぜひお子様との対話のきっかけとして、挨拶に「心のバトン」を込めて交わしていただければ幸いです。

これからも学校とご家庭が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えてまいりたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。

学習発表会での一幕



教職員の私物端末・スマートフォンの持ち込みについて

このたびは、教職員の私物端末・スマートフォンの教室への持ち込みに関して、さくら連絡網にて既にご案内を差し上げたところです。本校では、学校長が許可した教頭をはじめとする数名の教職員が、緊急時の連絡手段としてスマートフォンを校内で所持しております。これは、児童や各学級の実態に応じて迅速な対応を可能にすることを目的としています。なお、これらの端末を撮影等の目的で使用することは一切ございません。つきましては、学校の安全管理と緊急時対応にご理解とご協力をお願い申し上げます。